

脱炭素に対する機運が世界的に高まっています。そのうえ収益を圧迫するエネルギー価格の上昇も続いており、もはや省エネ活動は企業規模の大小を問わず不可欠になってきました。こうした中、精密部品加工、コバヤシ精密工業（南区大野台）は、新会社・ENIMAS（エニマス、東京都町田市）を設立。電気使用量の「見える化」ができるデバイス（ポータブル電流計）を開発し、中小製造業などを対象にした脱炭素・省エネサポート事業を始めました。これまで把握ができていなかった工場内の機械や設備ごとの電気使用量、CO₂排出量をリアルタイムで計測できるのが特徴です。同製品の普及を目指す小林昌純社長を取材しました。

■中小にも求められる脱炭素

カーボンニュートラルへの取り組みは世界的に加速しています。日本でも自動車や飲料、電機などのグローバルブランド企業が脱炭素を進めており、具体的には、スコープ1（企業が直接排出した温室効果ガス）、スコープ2（間接的に排出した温室効果ガス）、スコープ3（サプライチェーン全体から排出された温室効果ガス）と段階的に取り組んでいます。中小企業にとっても近い将来、脱炭素が求められてくることは必至です。

とはいえ、自社の電力使用量やCO₂排出量を把握し、脱炭素化を図ろうとしても「どこから着手してよいか分からない」という中小企業も少なくないはず



スマホでも確認可能

小林社長は「確かに、市場には事業所のエネルギー使用量を見える化するシステムがありますが、あくまで事業所全体の数値です。実際に、どの設備にどの程度の使用量があるのかが分かりません。そうすると、省エネ活動は予測や仮定でしか実践できません」と説明します。

■1セットで設備8台まで

エニマスのポータブル電流計は、工作機械やコンプレッサーや空調といった、あらゆる設備の電力使用量を個別に計測できます。クランプ計と本体、子機などのセットで構成。

これらを分電盤につなぐだけで見える化できます。1セットで設備8台までの監視が可能となっています。さらに、各設備のデータは4G回線経由でクラウド

設備ごとのエネ使用量 監視可能なデバイス開発

(株)コバヤシ精密工業 代表取締役 **小林 昌純さん**



上にアップされ、パソコンやスマートフォンで確認。CSVファイルにも出力できます。小林社長は「それぞれの設備の使用実態を把握することで、夏や冬の電力需給ひっ迫時には、設備ごとの計画運休もできるようにもなります」と話しています。

■「相模原モデル」を

現在、39万8000円で販売をしていますが、すでに多数の引き合いが来ます。「営業をかければほとんど決まります」（小林社長と言っほど、手応えを感じているそうです。

実は同製品の開発、製造は「オール相模原」で担っています。筐体は松永商工、ソフトウェアはハイスポット、基板はモーションリナックス、実装はトモエレクトロ、アプリデザインはワンプロモーションなどが担当しています。

来年1月には省エネコンサルタントや大規模工場向けの製品の販売も計画。小林社長は「まずは市内中小企業の多くに活用してもらい市内産業の脱炭素化を実現し、それを『相模原モデル』として全国に知らしめていきたいです」と意気込みを語っています。